もうひとつのわたし

個人情報が危ない

第3部　ネットのほころび⑥完

（河北新報）

欠陥抱え膨らむ市場

「鍵なし」のマークがパソコンの画面に次々と現れる。電波を使い、データを送受信する無線LAN（構内情報通信網）を通してコンピューターへのアクセスが可能であることを表示するマークだ。

特定非営利活動法人（NPO法人）「日本情報流通協会」（東京）関係者が先月、仙台市中心部で行った実験に同行したときのことだ。

無線LANへの不正アクセス防止対策の有無を確認するのが目的。パソコンで無線LANが発する電波を受信し、検索ソフトを使って電波の状態を調べる。通信内容を暗号化するなど、外部からのデータ侵入をブロックしていない場合は「鍵」マークが付く。

□　■　■

実験は一時間余り。無線LANの設置場所を約百二十カ所確認し、このうち約五十カ所でデータが暗号化されていなかった。「○○リース」と企業名が判読できたケースもあった。

無線LANに侵入すれば、不正アクセス禁止法違反に問われる恐れがあるため、実験はそこで打ち切った。「無線LANは便利だが、情報が漏れる恐れがあるということを分からないで使っている。セキュリティー対策が甘い」と協会関係者。

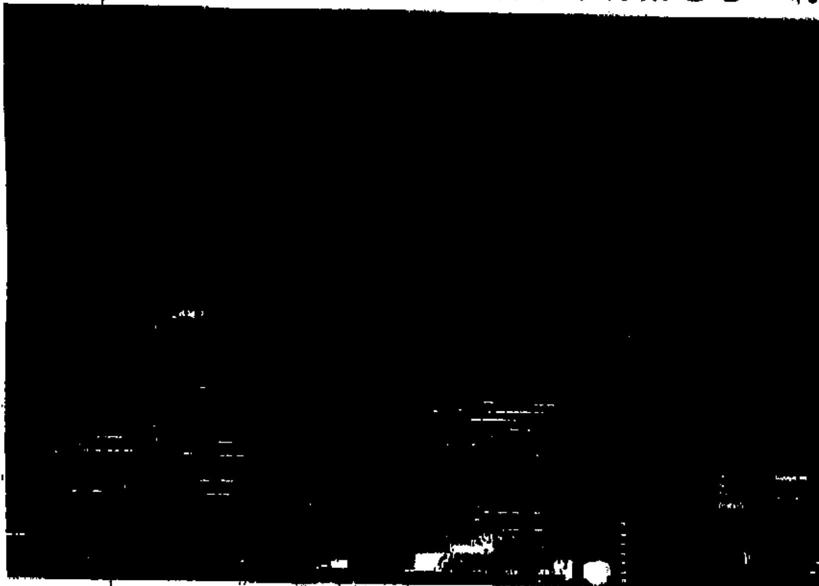
無防備

無線LANは配線が不要で、インターネットを通して、外出先からでもデータ閲覧が可能。こうしたメリットが受け、周辺機器を含めた市場規模は数千億円に上ると見込まれるなど、IT（情報技術）インフラの成長分野と目されている。

個人ユーザーも増えているが、セキュリティーの不備も露呈している。中央省庁や東京都庁のデータが、無線LANを通じて外部に筒抜けになっていたことが二〇〇二年十二月、民間技術者の指摘で判明した。「最悪の場合、パソコン内のデータが改ざんされたり、個人情報が盗まれたりする危険がある」と協会関係者は警告する。

■　□　■

セキュリティーの不備は無線LANだけではない。企業や個人がネット上に開設しているホームページ（HP）の管理もかなり甘いとされる。



無線LANの電波が飛び交うオフィス街。情報管理が甘く侵入される危険性が指摘されている

都内のネット専門の調査会社によると、ネットを検索する際に、特定のアルファベットをキーワードとして打ち込むだけで、本来は閲覧できないデータまで検索してしまうことがある。

出会い系サイト利用者のメールアドレスや、業務文書の名前、連絡先が丸見えになったことも。調査会社は「欠陥のあるソフトを知らずに使い続けているために起きる初歩的なミス」と指摘した。

■　■　□

HPへの侵入が発覚し、摘発されたケースもある。京都大の研究員は今月四日、著作権保護団体のHPに侵入し、約千二百人分の個人情報を引き出して公開したとして、不正アクセス禁止法などの疑いで警視庁に逮捕された。

研究員はそれまでも、官公庁や金融機関のHPで使われているプログラムの欠陥を発見、公表してきた。

著作権保護団体の幹部は「プログラムの欠陥と個人情報を公にした行為は許せない」と非難する一方で、「やみくもに公表しなければ、善意の通報者と言えるかもしれない」と欠陥を見つける行為自体は責めない。

国内のネット普及率は50%を超えた。IT社会は情報収集を手軽にしたが、便利さの陰に潜むリスクはまだまだ大きい。

（個人情報保護問題取材班）

＝第4部は3月上旬に掲載する予定です